株主通信
第111期 中間事業報告

2020年4月1日から2020年9月30日まで

kitagawa
株式会社 北川鉄工所
証券コード:6317

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素より格別のご支援を賜わり、厚くお礼申しあげます。当社グループは2020年9月30日をもちまして第111期中間期間(2020年4月1日から2020年9月30日まで)が終了いたしましたので、当該期間の事業概況についてご報告申しあげます。

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行による影響を受けるなか、米中貿易摩擦をはじめとする通商問題などもあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。また、わが国の経済においても、緊急事態宣言解除を機に経済活動が再開され、回復の兆しが見えたものの、今後も予断を許さない状況が続くとみられています。

このような状況のもと、当社グループでは、持続的成長へ向けた事業基盤の強化を図るため、新規事業の成長加速、既存事業の収益力強化、成長へ向けた経営基盤の確立に取り組んでまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響が甚大であり、非常に厳しい経営環境下での事業運営となりました。

株主のみなさまには引き続きご理解とご支援を賜りますとともに、今後とも末永くご愛顧いただきますようお願い申しあげます。

代表取締役会長兼社長　北川 祐治

連結決算ハイライト

連結売上高(百万円)

連結経常利益(百万円)

連結当期純利益(百万円)

会社の概況(2020年9月30日現在)

商号	株式会社北川鉄工所(英文名:Kitagawa Corporation)
本店所在地	広島県府中市元町77-1
設立	1941年11月28日
資本金	86億4千万円
従業員数	1,450名
事業内容	金属素形材事業、産業機械事業、工作機器事業

役員

代表取締役会長兼社長	北川祐治	取締役　執行役員	近藤正樹
代表取締役副会長	北川　宏	取締役(社外取締役)	沼田　治
取締役　常務執行役員	北川日出夫	取締役(社外取締役)	内田雅敏
取締役　常務執行役員	畑島敏勝	常勤監査役	野上武志
取締役　常務執行役員	栗本和昌	監査役(社外監査役)	貝原潤司
取締役　執行役員	佐藤　靖	監査役(社外監査役)	平　浩介
取締役　執行役員	宇田育造		

株式の所有者別状況

発行可能株式総数	普通株式	30,800,000株
発行済株式の総数	普通株式	9,650,803株
株主総数		9,696名

株式の所有者別状況

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
北川鉄工所みのり会	589	6.29
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	571	6.10
株式会社広島銀行	446	4.76
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	351	3.75
MSIP　CLIENT　SECURITIES (常任代理人　モルガン・スタンレーMUFG証券株式会社)	242	2.59
みずほ信託銀行株式会社	230	2.46
北川鉄工所自社株投資会	210	2.25
GOVERNMENT OF NORWAY (常任代理人　シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	209	2.24
株式会社日本カストディ銀行(信託口5)	188	2.01
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人　シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	184	1.97

(注)1　当社は自己株式(288,179株)を保有しておりますが、上記大株主から除いております。
　　2　持株比率は自己株式(288,179株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
剰余金の配当基準日 配当金受領株主確定日	期末配当　3月31日 中間配当　9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
特別口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社 みずほ証券株式会社
お問合せ先	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社　証券代行部 電話　**0120-288-324**(通話料無料) ※土・日・祝日を除く9:00～17:00
公告方法	当社ホームページにて電子公告しますが、やむをえない事由によって電子公告できない場合は、日本経済新聞に掲載して公告いたします。

住所・氏名の変更、配当金の受領方法の指定・変更、単元未満株式の買取・買増請求等の手続きのご案内

株主様が口座を開設されている証券会社にお申出ください。なお、特別口座に記録された株式に関するお手続きにつきましては、特別口座管理機関であるみずほ信託銀行(左記のお問合せ先)にお申出ください。みずほ信託銀行国内本支店(トラストラウンジを除く)またはみずほ証券国内本支店(プラネットブースを含む)においてもお取扱いいたします。

未払配当金の支払いに関するお問合せ先

みずほ信託銀行国内本支店にてお支払いいたします。また、みずほ証券国内本支店にてお取次ぎのみ可能です。

特別口座をご利用の株主様へ

特別口座に記録されている株式は、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買ができません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続きを行っていただく必要があります。お手続きについては、特別口座管理機関であるみずほ信託銀行(左記のお問合せ先)にお問合せください。

インターネット上で、いつでも最新のkitagawa情報をご覧いただけます
https:// www.kiw.co.jp /

R70 古紙パルプ配合率70%再生紙を使用　UD FONT　VEGETABLE OIL INK

第２四半期 セグメント別の概況

キタガワ マテリアル テクノロジー カンパニー

国内外の生産拠点間の連携強化、生産効率の向上、製品の付加価値の向上などの従来からの施策を推進するとともに、とりわけ自動車トランスミッション部品などの主要アイテムに対して重点的に品質改善を行い、収益力の向上に努めてまいりました。また、メキシコ子会社では、自動車の次期モデルに搭載される部品の量産に向けて準備を進めてまいりました。一方で、自動車メーカーの生産調整に対応するため、操業時間をコントロールするなど、固定費の削減に努めてまいりました。これらの取り組みを進めることによって、収益性の改善に努めてまいりましたが、市場環境の悪化の影響が甚大であり、売上が前年同期比で大幅に減少し、利益面でも非常に厳しい状況で推移しました。

単位：百万円

売上高	営業利益
9,474	-1,207
前年同期 14,525	前年同期 443

キタガワ サン テック カンパニー

コンクリートプラント事業では、総メッキ仕様の生コンプラントや新型ミキサなどの新製品の販売拡大に努めてまいりました。荷役機械関連事業では、風力発電の風車建設用クレーンの納入やクレーンの自動操縦システムの開発に注力してまいりました。立体駐車場事業では空間を最大限に活用できるスーパーロングスパンタイプ立体駐車場の営業強化を図ってまいりました。これらの取り組みを進めたことによって、コンクリートプラント事業はメンテナンス工事を含め順調に推移したものの、荷役機械関連事業は建築用クライミングクレーンの出荷が先送りになり、立体駐車場事業は売上の谷間に当たったことにより、全体の売上は前年同期比で減少しました。

単位：百万円

売上高	営業利益
8,721	686
前年同期 12,005	前年同期 1,641

キタガワ グローバル ハンド カンパニー

産業用ロボット周辺機器市場での事業化を推進していくために、ロボットハンドのQCD改善や開発の推進、システムインテグレータとのネットワーク構築など、今後の成長に向けた経営課題の解決に取り組むことで、引き続きカンパニーの活性化を行いました。また、新型標準チャックBRシリーズの市場認知度を向上させるため積極的に営業活動を行いました。一方で、収益面においては、受注量の減少に対応するため、機動的に臨時休業を実施して操業時間をコントロールするなど、固定費の削減に努めてまいりました。これらの取り組みを進めてまいりましたが、市場環境悪化の影響が大きく、国内外ともに企業の設備投資意欲が低下したことにより需要が伸びず、売上・利益ともに厳しい状況で推移しました。

単位：百万円

売上高	営業利益
3,054	-1
前年同期 5,097	前年同期 761

トピックス

IATF16949規格の認証を取得

キタガワ マテリアル テクノロジー カンパニーは、福山工場および連結子会社の北川冷機㈱甲山第2工場の2工場において、IATF16949（自動車産業品質マネジメントシステム）規格の認証を取得いたしました。IATF16949は、国際的な品質マネジメントシステムの中で、自動車産業に特化した品質セクター規格を指し、ISO9001（当カンパニー国内工場、北川冷機㈱全体で取得済み）と併せて利用するものです。

IATF16949の到達目標である「不具合の予防」「サプライチェーンにおけるばらつきおよび無駄の削減」「継続的改善」をもたらす品質マネジメントシステムを構築し、より価値ある製品とサービスを提供してまいります。

建設技術研究開発助成制度に採択

キタガワ サン テック カンパニーは、国土交通省の令和2年度建設技術研究開発助成制度「政策課題解決型技術開発公募」で、「新工法を活用した建設現場の生産性向上に関する技術」として「スラッジ水高度利用によるコンクリート産業の環境負荷低減技術に関する研究」を応募し、採択されました。

この制度は、国や地域の諸課題（地球温暖化、社会インフラの老朽化、少子高齢化等）の解決に資するための技術開発テーマに対し民間企業や大学等の先駆的な技術開発提案を公募し、優れた技術開発を選抜し助成する競争的資金制度です。本研究では、スラッジ水（生コン工場のコンクリートミキサや生コン運搬車の洗浄水を回収し、骨材を除去した水）に含まれる未利用のセメントを、再び生コン製造用のセメントとして活用するための技術開発を進めます。この技術の実用化により、建設分野で発生する廃棄物の削減、およびエネルギーを投入し製造されたセメントを無駄にしない、コンクリート関連産業における持続可能な利用体系の実現を目指します。

日本初の風車建設用クレーンを開発

キタガワ サン テック カンパニーは、日本初の陸上風車建設用タワークレーン（JCW1800K）を開発いたしました。

地面沈下をオペレーターに知らせる「沈下監視システム」、クライミングダウンによる強風対策、クレーン仕様によるカウンターウェイトの増減機構、巻上フックブロックの掛け本数の変更機構などを新基軸とし、ライバルとなる「超大型移動式クレーン」では不可能な、吊り上げ荷重と高さを実現いたしました。

日本政府は脱炭素社会の実現を目指しており、再生エネルギーの活用促進がますます進んでいくものと思われます。そのなかで、これまで以上に風力発電の需要も高まることが予想されます。当カンパニーでは、今後も積極的に新型クレーンの開発に注力して、風力発電分野にチャレンジしていきたいと考えております。

なお、YouTubeで組立の様子をご紹介しておりますので、ぜひご覧ください（「JCW1800K」でご検索ください）。